

2018年5月2日

ラオスの経済成長と工業化への道

影響増す中国は本格工業化へ寄与するのか

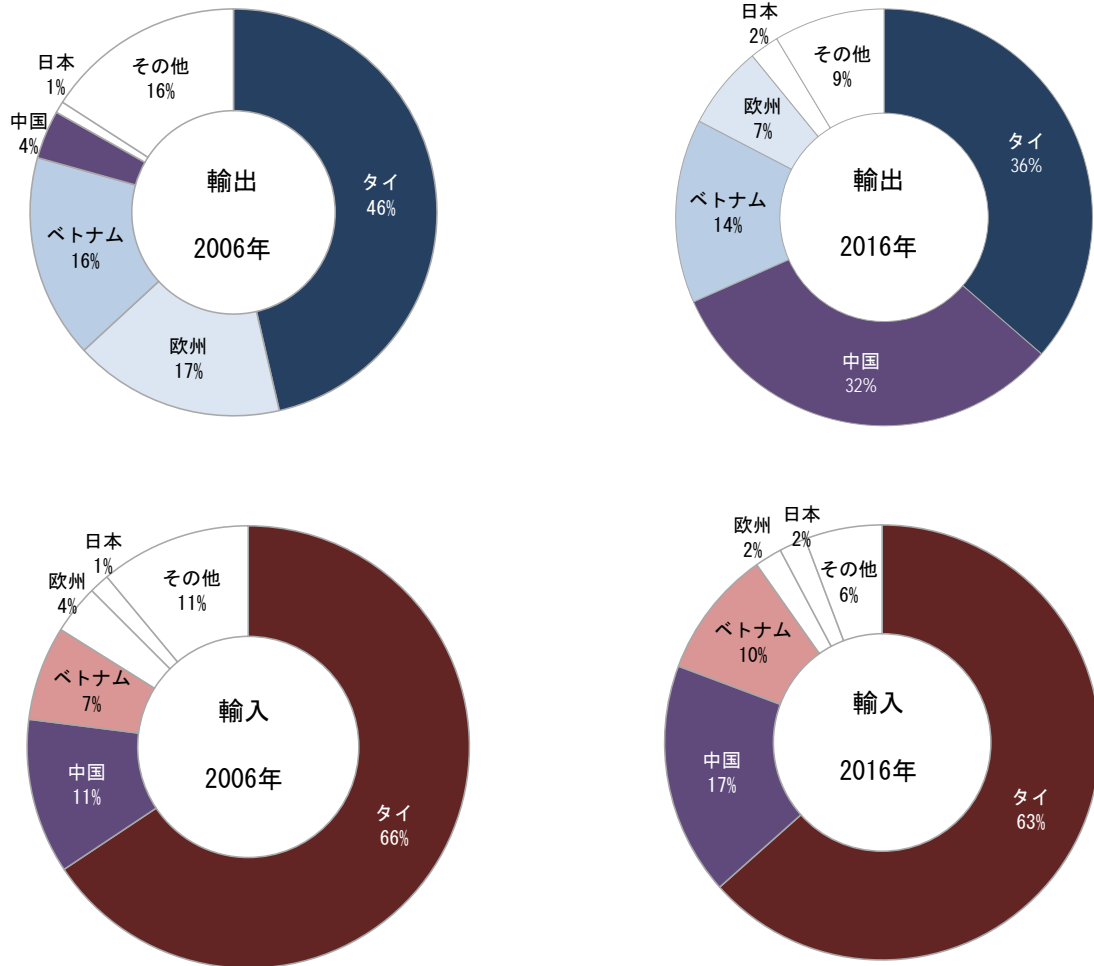
アジア事業開発本部
アソシエイト 川戸瞭

ラオスは国連により後発開発途上国に分類されていて、同国の一人当たり GDP は 2,570 米ドルである (2017 年、IMF)。政府は 2016 年 1 月に開催された人民革命党第 10 回党大会で、2030 年までに上位中所得国入りを果たすことを目指す新たな国家目標「ビジョン 2030」を承認した。この中で 2030 年までの 15 年間で一人当たり GDP を 4 倍に引き上げるという野心的な計画が掲げられている。計画達成には年率 9.3% の成長を 15 年続ける必要がある計算だが、諸外国の経験から容易に達成可能な成長率とは言い難い。特に長らく一次産品輸出に依存してきた経緯の同国経済は、資源価格の変動に影響を受け易い。かつてのような資源価格の高水準での推移が見込み薄となった昨今では、安定した経済成長のために本格的な工業化社会への転換が殊のほか求められる。

ラオスは首都ビエンチャンがタイ国境に近いこともあり、これまで経済的にタイへ大きく依存してきた。一方、政治面では以前から体制に近い中国の影響を受けていたが、経済面でも 2010 年以降その影響力が強まっている。実際、2000～2015 年における国別対内直接投資累計額の第 1 位は中国である。首都ビエンチャンを訪れると、中国資本により建設された高層マンションが立ち並ぶ風景が嫌でも目に入り、その影響力の強まりがはっきり分かる。

貿易相手国としても中国の存在は 10 年前に比べ非常に大きくなっている。現在、ラオスの最大の貿易相手国は輸出入ともにタイであるが、輸出では顕著に中国の比重が増している。2006 年時点では総輸出額に占める割合は 4% であったのが、2016 年には 32% と首位のタイ (36%) に比肩する水準にまで拡大、ラオスの経済成長を支える柱になっている。

(図表 1) ラオスの貿易相手国 (2006-2016)



出所：UNCTAT Stat より大和総研作成

急増する中国向け輸出品の内訳を直近年（2016年）で見ると、「金属鉱石・金属スクラップ」39%、「コルク・木材」13%、「非鉄金属」7%の順が多い（図表2参照）。最大の「金属鉱石・金属スクラップ」は、「銅鉱・銅マット（銅品位65%程度）」が97%とほぼ全量に近い。この銅鉱輸出の存在感の高まりは、2009年にラオス最大のセポン銅山の権益が豪州企業から中国企業に移ったこと、銅鉱脈の新たな発見により産出量も増えたことなどが大きく影響している。このように中国向けの輸出は銅鉱や木材などが大半、要するに1次産品の輸出の伸びが中国を主要な輸出相手国に押し上げた理由である。

以上に対して、タイ向け輸出（2016年）は「非鉄金属」32%が最大で、それに次ぐのが「電気」26%、「通信・録音機器」19%である。「非鉄金属」は粗銅、銅合金、銅の一次加工品などで、中国向けと純度や加工段階は異なるものの銅の輸出であることに変わりない。

ただ、タイ向けではかつての木材に代わって近年では電気、通信・録音機器などが主要輸出品へと地位を高めているのも特徴だ。

(図表2) 中国、タイ向け品目別輸出割合

	China											Thailand										
	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16
食料・動物	9%	9%	9%	8%	8%	3%	5%	7%	4%	6%	9%	4%	4%	5%	7%	5%	5%	6%	6%	4%	7%	10%
穀物	4%	3%	3%	4%	6%	1%	3%	3%	2%	4%	5%	2%	2%	3%	3%	3%	2%	2%	2%	0%	2%	1%
野菜・果実	5%	4%	5%	3%	2%	1%	2%	4%	2%	2%	3%	1%	1%	1%	1%	1%	2%	3%	4%	3%	4%	7%
非食用原材料	82%	75%	77%	83%	81%	86%	81%	80%	82%	55%	59%	46%	45%	44%	48%	19%	6%	6%	5%	4%	3%	4%
天然ゴム	24%	17%	14%	8%	4%	4%	7%	8%	4%	4%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
コルク・木材	53%	48%	42%	22%	16%	27%	29%	40%	51%	27%	13%	41%	40%	37%	43%	5%	4%	4%	3%	3%	2%	3%
金属鉱・金属スクラップ	3%	6%	18%	51%	61%	54%	44%	32%	27%	24%	39%	2%	3%	4%	2%	13%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
鉱物性燃料、潤滑油	0%	0%	0%	0%	0%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	18%	10%	13%	13%	28%	34%	35%	38%	35%	35%	26%
電気								0%				17%	9%	11%	11%	27%	33%	34%	37%	34%	30%	26%
原料別製品	6%	13%	10%	8%	10%	9%	12%	8%	5%	10%	7%	27%	35%	33%	27%	41%	50%	48%	47%	41%	24%	33%
非鉄金属	5%	13%	10%	8%	10%	9%	12%	8%	4%	7%	7%	24%	32%	31%	25%	40%	50%	47%	47%	40%	20%	32%
機械類、輸送用機器類	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	0%	2%	3%	4%	4%	4%	2%	2%	2%	13%	25%	22%
通信・録音機器		0%	0%		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	11%	18%	19%
その他						0%		3%	7%	19%	21%	2%	1%			0%	0%	0%		0%	0%	0%

出所：UNCTAT Stat より大和総研作成

ラオスは水資源に大変恵まれており、水力発電施設の建設が盛んである。発電された電力の多くは、このようにタイを中心として周辺へ輸出されている。さらに現在、サイニャブリ発電所など大規模な水力発電施設建設プロジェクトが進んでおり、タイへの電気輸出は今後も安定的に拡大、ラオスの対外貿易を支える重要品目であり続けることが期待されている。2014年よりタイ向けに伸びた「通信・録音機器」など機械類の輸出については、タイプラスワンの動きが進んだことが背景にある。つまり、2011年にタイで発生した大規模洪水被害に加え、政情不安、賃上げなどでタイの事業環境が厳しくなり、5年程度前からニコンやトヨタ紡織などタイ進出の日系企業の一部がラオスに生産拠点を部分的に移す動きがある。まだ銅輸出ほどの主力に成長してはいないが、今後はこうした比較的付加価値の高い工業製品の生産・輸出が伸びることで着実な所得増、経済の安定成長を期待したいところだ。

翻って急増している中国向け輸出については、先の通り現状でそのほとんどを一次産品が占め、急増する中国の国内需要に応える原料供給基地の地位に留まっているのが実情だ。一次産品輸出がメインのうち、内需の小さいラオス経済は国際市況に大きく左右されることとなる。実際、過去の経済情勢を振り返っても資源価格との連動性は大きい。足元のGDP成長率からみて資源価格の高騰でもない限り経済成長目標の達成は困難で、安定した高水準の成長継続には輸出工業製品の生産拠点化を押し進めることが重要だろう。現在タイ向けに工業製品の輸出増加の兆しがあるのは好ましい傾向だが、本格的に工業製品の生産拠点として投資を誘致するには、まずは道路インフラの整備や教育水準の向上など製造業

の事業環境改善が避けて通れない。

この点、中国の「一带一路」構想に基づくラオスへの積極的なインフラ投資には期待をかけるべきでないか。例えば、中国の雲南省昆明からビエンチャンを結ぶ「中老鉄路」整備のほか、「サイセター総合開発区」といった中国資本による経済特区建設が進むなど、各種インフラ整備進展の可能性が高まっている。これらと並行して、ラオス政府が外資規制の緩和や対内投資優遇策の拡充など外資企業の積極誘致に動くことで、さらなる工業化へ歩を進める展開が見えてきた。ラオスの本格工業化への道はまだまだ長いですが、中国「一带一路」構想による投資の積極化は、工業化加速の重要な契機となるのかもしれない。

—以上—